

## カワラヒワ



2007年4月26日。北海道神宮の苗畑を今年初めて見てきました。雪はすっかり消えてエゾエンゴサクの青い花があちらこちらに見えていました。苗達はイチイが1本だけ怪しい雰囲気、他は無事に越冬したようでした。今年は半数ちかくを山に植えることになると思われます。それにしても神宮の森はきれいになりました。最初に入ったときの状態を知っていますので、手入れの効果がはっきり分かります。うれしい限りでした。

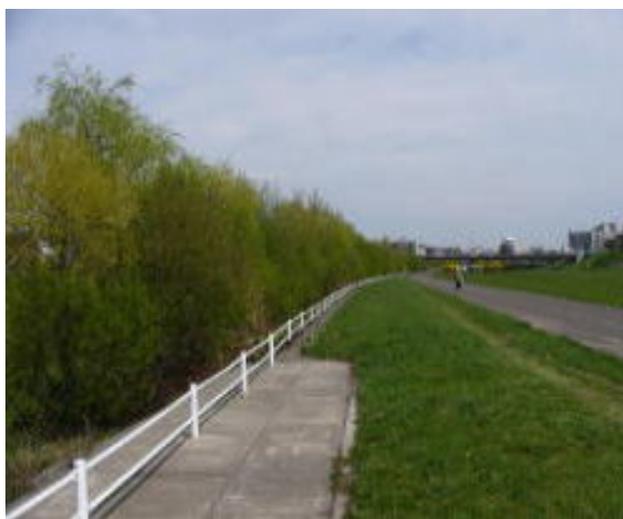
苗の点検を終えて車に戻りみち、スズメが大勢で騒いでいるような鳥達の声が聞こえてきました。この時期に「秋スズメ」でもないのに、何者達か？ と近づきますと、それらはカワラヒワの群でした。神宮の樹木は大木です。まだ葉の出していない広葉樹の梢あたりにたむろして騒いでおりました。あいにくの小雨模様なのでシルエットでしかみえません。あちら、こちらと木々をわたりながら止まっては騒ぎます。皆で春を喜んでいる様子が印象に残りました。

カワラヒワは地域的分布も広く、また活動範囲も森林ばかりでなく野原や川原、人口的な公園にまで出没し、そんな場所に巣も作ります。スズメ以上に逞しい感じですが、巣はお椀型で高木から低木、時には地上さらには樹洞にまで巣をつくるようですから適応能力が高いことがわかります。巣材もプラスチック材の紐や切れ端を積極的に使ったりしますので、この面

でも頭の柔らかさが現れます。こんな面が分布を広げる要因なのでしょう。東京でも身近に普通に見られる鳥でした。

装いは黄色を上手にあしらってオシャレであります。胴体は緑がかった褐色でこれはやや地味であります。しかし翼は見事な美しさです。翼を広げた状態で黄色が線になりますので、羽ばたきのなかで黄色が美しく輝きます。目立ちます。図鑑には「風切は黒く、初列風切と次列風切の基部は黄色く翼帯となりよく目立つ」と書かれています。嘴はブンチョウ型なので種子類が主食であることが分かります。ヒナには吐き戻して与えるようです。

雌雄の区別がしにくいのですが、メスは色彩コントラスト的に心もち淡くなります。樹洞にも営巣するのならば、巣箱を使ってくれるかも知れません。今年は巣箱ウォッチングを強化しようと張り切っております。そろそろ繁殖に入りますので、ペアリングを始めたようです。縄張りを主張するオスの囀りはビーン、ビーンと聞こえる単純なものです。地鳴きはコロ、コロと聞こえまして、これは飛びながら鳴き交わしていたりします。それに前記のざわめく声の3種類があるようです。



映像は豊平川河畔林でゲットしたものです。この時期豊平川河畔はヤナギの新芽が美しく、種類によって微妙に違っている色合を楽しめます。毎年南大橋の橋梁の裏側に営巣するイワツバメが橋の辺りで飛んでいました。